

運輸労連「第36回セメント生コン・タンクローリー輸送部会」レポート

2023年11月12日(日) 13:00～

鹿島セントラルホテルにて、第36回セメント生コン・タンクローリー輸送部会(WEB併用)で開催されました。

始めに司会進行役として、入倉(本部)書記次長よりWEBにて挨拶あり、続いて、代表者挨拶として、世永(本部)副委員長がWEBにて挨拶を頂きました。

座長には、小椋(太平洋陸送労組)委員長が指名され、会場参加からWEB参加の順に34名が自己紹介をして、坂井(本部)書記次長より、資料(全国トラック協会・解説「トラック運転手の改善基準告示から危険物運搬に関する項目」)について説明がされました。

- ① 適用除外業務
 - ② 水底・長大トンネル等の通行禁止または制限について
 - ③ 荷卸し立ち合いの徹底
- など、資料についての質問やこれまで継続協議になっている問題、各労組で悩んでいる問題に対して意見交換がされました。



11月13日(月) 9:00～危険物施設視察として、丸全昭和運輸株式会社のご協力を頂き、鹿島セントラルホテルから貸切バスにて、丸全昭和運輸グループ会社「鹿島タンクターミナル株式会社」と「鹿島バルクターミナル株式会社」の二か所を視察させて頂きました。

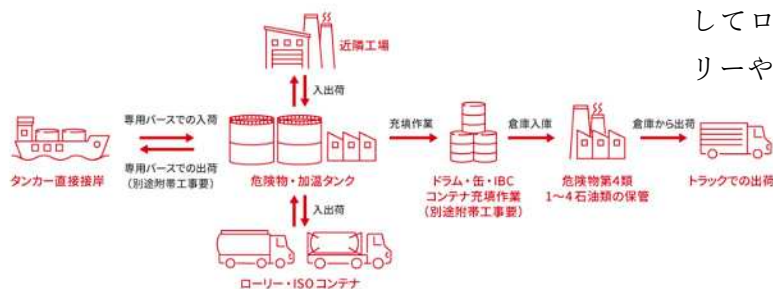


※鹿島タンクターミナル

(写真撮影はNG)

接岸ドルフィンに150M位のタンカーが着き、各貯蔵タンクへ搬入してローリー充填所でタンクローリーやコンテナへ詰め替えて、

搬送します。
コンタミの防止策としてタンクごとに一つの配管になっている。





※鹿島バルクターミナルと指定可燃物倉庫

次に、タンクターミナルからバスにて「鹿島バルクターミナル」へ移動、バスに乗ったまま、貯炭場コールセンター内を回りながら説明をしてもらいました。

貯炭場はすべて防塵フェンス（高さ10m）で囲われていて、10か所に散水設備が設置しています。

に散水設備が設置しています。

鹿島平井倉庫（指定可燃物倉庫）では、バイオマス燃料として、ウッドペレット（間伐材等の建材として使われていない木材を破碎して粉状にして後、乾燥・圧縮して円柱状に固めた燃料）をタンカー船より引上げ、10tダンプカー3～4台で倉庫に運び込みます。

倉庫で保管したバイオマス燃料を20t専用ダンプトレーラーにシャベルカーで積み込み、東京電力鹿島火力発電所に運びます。



平井倉庫では、バスから降りての視察でした。両側倉庫内があり中央通路の屋根があり水に濡れないような形で積み込み作業が出来る施設になっていました。

今回のセメント生コン・タンクローリー輸送部会の二日目に危険物倉庫の視察が出来た事について、丸全昭和運輸株式会社と丸全昭和運輸労働組合に感謝申し上げます。